

九月十七日

日本仏教史読み進む。えらい事始めちゃったなと後悔することしきりだが、今やめてしまったら、たった三日の禁煙、禁酒の類だからみっともなく止めるわけにはいかない。しかしどうやら仏教史の問題点はチョツとわかってきた。中世精神を律する無常、ものあわれ等の心性は本覚思想と呼ばれる考え方が母体になっていたようだ。無常を悲哀とする価値観は本覚思想によつて超えられた。仏教思想本来の性格を考えるならば、それは無常を克服すべき対象としてとらえるべきものだった。それが本覚思想では一転して全てのこの世の現象があるがままの自然として肯定的にとらえようとする。この全てを「仏」としてとらえる考え方自体は、もともとのインドの仏教には無かったもので、言ってみれば日本独自の、日本仏教史に独自なものだった。仏教全体から見れば異端としか言いようのない性格が、日本仏教を規定する基本的性格であるとするれば、それは謂はゆる日本的なモノであるとされてきたモノの性格の基本構造ではないか。モノの姿に構造を見ようとする現代にもそれは続いていよう。

朝、定例の打合わせ。

夕方、佐藤健の見舞にゆく。

ホームページの「支援センター」に早速反応があつた。